

第5回新宿区文化芸術振興会議（第4期）議事要旨

- 開催日時 平成30年3月23日 午前10時から12時まで
- 開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第4委員会室
- 出席者
委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 松井千輝 的場美規子
大野順二 中島隆太 大和滋 舟橋香樹（欠席：沼井利枝 松島貴美子）
*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)
事務局 村上文化観光産業部長 小泉文化観光課長 原文化観光係長 唯野主任

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

2 議事（要旨）

- (1) 前回会議の内容について
資料1に基づき、前回会議（平成29年11月13日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 報告事項
新宿フィールドミュージアム2017年度報告書に基づき、実施報告を行った。
- (3) 調査審議事項
新宿区文化芸術振興会議（第4期）報告書の素案について説明した。
- (4) 意見交換

【以降、意見交換】

- ・「フィールドミュージアム・アクション2020」について、主にこのアクションに主体があるようだが、フィールドミュージアムそのものの概念の中には、遺跡など動かないものもある。
- ・フィールドミュージアムの広報は、高齢者と若者の両方考えてやってほしい。
- ・フィールドミュージアムの参加団体がどんどん増えてそろそろ飽和という状況を考えて、どこかの段階では見直しのようなことも行ったほうがいいのではないか。
- ・新宿文化センターについて、これから音楽や舞踊を中心にやっていくということは、大変いい決断だろうと思う。一方、ここでやられていた小中学生の展覧会や区内の自主的な団体展というようなものは、どこかかわりにやるところも考えていただきたい。

- 漱石山房記念館は「新宿区内の文学者の研究センター」のような拠点になるとよい。
- 漱石は当然、それ以外の文化人、作家もいろいろゆかりがある。その発信というのはこういう人がいた、こういうことをやったという発信だけではなく、さらに深い専門的な研究ができる場にしたい。さまざまな専門家を集めたシンポジウムをするのか、あるいは研究グループをつくる場所として活かせれば大変いいと思う。いろいろな資料もあるし、それぞれの見方というのも含めた深い研究の場としての活用を考えていただきたい。
- 報告書は表もたくさん入っていて、一生懸命見ようかなというくらいのフォントになっている。行間もすごくあけているので、全体的に見やすいなという印象を受けた。
- フィールドミュージアムは昨年と比較するとポスターを使ったり、参加団体が増えたり、スタンプラリーの人数も増えたり、すごくよかったと思う。
- アンケートで「チラシは必要ないのではないか」という、実施団体の意見もあったので、チラシの部数はもう一度考えてもよいのではないか。
- フィールドミュージアムは新宿区民の認識度が低いのがっかりしている。2020年まで、あと2年半ぐらいあるので、その認識度の目標が40%というのは、すごく低い印象を受ける。
- 文化センターは、2本の柱ということでわかりやすくまとめてある。
- フィールドミュージアムの紙媒体は使われ方をもう少し考えたほうがいいのか、あるいは本当に減らすのか、少し分析して、うまく使われるようにしていただきたい。
- 新宿フィールドミュージアムの報告書にオープニングイベントやシンポジウムのトークセッションが載っていたので、大変ありがたかった。
- 報告書は1部あたり1,447円かかっていると記載されていて、非常に高い報告書ができ上がったなという印象を受けた。
- 参加団体アンケートで、「ウェブサイトに関してはスマホ対応にすべき」、「SNSに関してはシェアして拡散しないと意味がない」という意見に同感。一個人が発信したところで、結局フォロワーがいなくて情報というのは拡散していかないし、インフルエンサーというSNS上で非常に影響力を持つ方たちに協力をしていただかないと、結局は直接集客には結びつかないと思う。
- フィールドミュージアムのウェブサイトはフェイスブックとツイッターのアイコンはあるが、インスタグラムのアイコンがない。インスタグラムというのは視覚に訴えやすい写真をメインにしたSNSなので、ハッシュタグをうまく利用しながら拡散していただくよう、利用すべきだと思う。新宿観光振興協会のホームページも同様にインスタグラムのアイコンがないので、そちらにも追加していただきたい。
- フェイスブック、ツイッターも、埋め込み式にするとクリックせずそのまま情報が見られて、わざわざこちらが情報をとりにいかなくとも自然に視覚に訴えるという形になる。
- 「サポーター制度」の導入を検討している中で、アンケートではボランティアを活用しなかった団体というのがほとんどで、サポーターに期待していることはいろいろあっても、

実際サポーターを受け入れるにはじっくり検討する必要があるという意見が多数だった。サポーター制度にすごく賛成だが、そんなに簡単に進められることではないのかなと思う。

- 練馬区は「よりどりみどり練馬」というフェイスブックを開設し、PRサポーターになった区民の方々が身近な地域情報や、四季折々のイベント・風景などの情報発信をしている。新宿区もこのようなものも参考にしながら、サポーター制度をスムーズに進められるようにしてほしい。
- 豊島区は、新ホール「Har ez a池袋」のほかにも、例えば池袋西口公園を再開発してクラシックとか演劇、コンサートやパブリックビューイングができる円形の野外劇場というのが2019年秋に完成する。豊島区も国際アート・カルチャー都市という構想を着実に実現しているという印象もあり、2020年も意識していることがわかる。東アジア文化都市の2019年国内候補都市にも決定しているということで、新宿区はすごく大きく水をあけられた気がする。
- 文化センターは、名称を変えようかという話も出たが、結局名称を変えても中身が伴わなければ区民は余計がっかりしてしまうと思う。
- 文化センターで東京2020大会のパブリックビューイングの実施を検討してはどうか。オリパラ関連のイベントをするということが、結局は新宿文化センターの認知度を高めていく方向につながっていくと思う。
- 文化センターのバリアフリー化は、今、どのぐらいできてきているのか。もし特定天井の改修が入るようであれば、エレベーター、エスカレーターの改修も検討してほしい。
- 30年度は補助事業として文化センターでクラシック音楽を行うようだが、2本ともちょっと難し目なので、もうちょっとポピュラーなものでもいいと感じる。
- 文化センターには「仮押さえ」という制度がない。仮押さえができると、もう少しいろんなところが使いやすくなる。
- 新宿区には、区民という存在と、働きに来ている労働人口、ショッピングなど国内外から遊びに来ているという人たちがいる。まず区民にとって誇り高きまちとして、そのパーツとしての文化・芸術というのがあって、そこを深く掘っていくときに、もう一方でこの文化・芸術というのは、「住みたいまち」、「働きたいまち」、「行ってみたいまち」という視点での1つの大きなパーツになるのではないか。
- 国際観光都市新宿としての魅力の発信との政策の連携もますます重要になってくる。
- 外国人、特に観光客も含めるとなると、多言語対応の検討ということが出てくる。
- フィールドミュージアムは今まで個別にやってきたのが、計画性を持ってつながって、非常に中身も充実して、いい位置付けを得てきた。
- 文化センターについてもようやく方向性が固まってきて、次のステップに行けるポイントに来た。今回、初めて文化センターにこういう方向性が出たということは、それによって価値判断ができるということ。

- 音楽や舞踊を中心にやるとしたら、そちらを優先的に仮押さえ可能にするなどの方向性が出せれば良いと思う。
- 施設運営の専門性、運営の柔軟性というものを高める方向に行かないと、計画倒れになってしまう。
- 今期で、フィールドミュージアムの方向性と、文化センターの方向性が定まってきたので、次のステップに行く施策をいろいろ考えていただきたい。
- 漱石山房記念館で開催されたオープニングイベントは、すごく内容が濃い。特にキーワード的に出てきていること、例えば「新宿人」というような考えとか、あるいは「昔の町名を復活させたらどうか」というような意見など、非常にいろんな観点からのご意見が出ていた。
- 吉住区長の挨拶で、「フィールドミュージアムの広がりに関する期待感」と盛り込まれていて大変心強く思った。「SNSでの拡散」を呼びかけていただいたり、あるいは、「いろんな切り口で新宿を切り取ったり拡大したりして楽しんで欲しい」というような、すばらしいメッセージをいただいた。
- 「ヴィレッジ」、「サンクチュアリ」というアイデアも非常に定着してきている。これからヴィレッジごとの中身の掘り下げということが必要になってくるのだろうと思うので、ぜひそういった議論の場をどんどんつくっていただければと思う。
- ガイドブックが大変好評ということで、やはり印刷も大事だと思うので、部数がきちんと適正に、足りなくならず、うまく回っていくようなことを考えていただきたい。
- スタンプラリーの参加者数がまだまだかなという気はするが、これだけたくさんある新宿の文化資源をいかに知ってもらおうのかということが、着実に浸透してきているのではないかという印象を受けた。
- スタンプラリーを組み合わせたことは、話題づくりになり、あるいは自らが何かを発見するというようなことに、能動的な関わり方ができるような仕掛けとなっている。将来的には新宿の文化資源に関する検定のようなことができたらいいのではないか。
- 新宿を文化で盛り上げていこうという考え方に賛同される方が非常に多くいるということ、その方たちがもっと何とかできるのではないかという気持ちでいることが顕在化してきていて、とてもいいきっかけができた。ここから先をどう広げていけるかというところで、もっと大きな動きにするための賛同者をどう広げていくかというところが重要で、行政と民間が協力する仕組みも考えていければ良いと思う。
- 「フィールドミュージアム・アクション2020」でベンチマークをはっきり示すということは、行政的にもそれから区民の方々、支援者の方々にも非常に重要なことではあるが、一方でリスクもある。なので、どうしても手堅い数字になってしまう。
- 特に重要なのは「誘導の仕組み」だが、これが非常に難しいと思う。自発的な活動参加を促したいというところで、情報発信方法を工夫するというのがポイントである。
- 紙媒体は発行部数が多ければ多いほどトータルコストは確かに増大するが、単価が下が

るので効率的になるというところもある。

- 情報発信のあり方がデジタル化していて、海外から来る人はデジタル情報をつかむので、多言語化についてはホームページのほうで対応していく。
- フィールドミュージアムは、自然発生的にかなり拡充していくので、それをサポートする仕組みをどういうふうに実施していくのかというところに焦点を当てている。どちらかという、民間主導で、「私たち区民」にご協力をいただくということがポイント。行政はプレーヤーの1主体で、条件整備のほうを担当するという役割分担だと思う。
- 文化センターは区の施設としてきちんとした位置付けをする必要がある。
- 音楽と舞踊ということで方向性が出たので、少し焦点を絞った運営も可能になってくる。稼働率や稼働回数の実態を踏まえながら、今回明らかにした方向性に向かって実施をしていく時期に入っていくのではないかな。
- 国も文化芸術基本法を改正して新しく計画をつくり、その国の計画を参酌しながら地方自治体も計画をつくっていくということになっているが、新宿区はもうこういう形で先導してつくっているのだから、それをうまく使いながら、この計画自体をよりよいものにしていただければと思う。
- フィールドミュージアム自体が非常に大きな予算と人をかけてやった事業なので、それを評価するための1つの素材として、報告書は決して高くはないと思う。参加された方々のさまざまな声も踏まえながら、今後の推進に役立てていければいいと思う。
- イベントだけではなく、地道な研究や、専門研究の場にもなっているということは、非常に大きな資産になると思う。
- 画家の藤田嗣治さんは、ヨーロッパに長くいて、日本に戻ってきたときに新宿区に住んでいた。漱石山房のように会館をつくるのは無理でも、例えば記念碑でも建てるのはどうか。藤田はヨーロッパと日本とをつなげる活動をして、新宿では焼けるまではずっとそこにいたので、歴史の遺産として重要なポイントだと思う。
- 文化、あるいは歴史の重要な遺産が新宿にあるということを何かの形で伝えていく、さまざまなイベントをこれから行政も一緒になってぜひやっていただきたい。行政も、さまざまな文化遺産があるということを念頭に置いて、考えていただきたい。
- 東京ミッドタウン日比谷がオープン予定で、日比谷がこれからブロードウェイのまちになるというようなことが伝えられていた。文化芸術のまちの中心となるような感じの取り上げられ方をしている、ぜひとも新宿も文化芸術のまちとして、マスコミ等に取り上げていただけるように発信していただきたい。
- 文化センターに関して、近隣の豊島区や渋谷区で新しいホールができてきている。お客さんは自分の行きやすいほうへ行く。場所がいい、あるいは中身がおもしろそうなほうに行くので、新しいホールが、いつから稼働して、それが何をやるかということに応じて、文化センターの活動も検討して、人々が集まるような形を目指せればと思う。
- ハウステンボスのプロジェクトマップがすごかった。新しくフィールドミュージアム

ジウムに参加する聖徳記念絵画館の周りは競技場も近いので、あの空間を生かしてできるのではないかと。パブリックビューイングもあの辺でできてもいいのではないかと。

- 今、上野は文化会館だけではなくて美術館、博物館、都と国の施設が集積していて、上野の文化の杜を発信している。池袋や渋谷もエンターテイメントシティを打ち出している。今まで、この会議では、フィールドミュージアムを中心に進めていくことの議論が中心だったが、今後、新宿区がどういう形のまちを打ち出していくのかということ議論する時期である。
- 「サンクチュアリ」という発想は出てきたが、新宿の場合は、本当に多様で、特徴付けが非常に難しい。フィールドミュージアムとか文化センターの議論がある程度固まってきたので、そろそろ次の議論ができる場があるといいと思う。
- 銀座方面は、ぐるっと周る無料バスがある。新宿の場合も、無料バスがいいのか、あるいは交通機関の利用案内を非常にわかりやすくしたらいいのかというようなことを含めて、お客さんの案内、足の便を考えていただきたい。
- 例えば新宿文化センターと漱石山房記念館、歴史博物館を巡回するバスというのは春に出ている。それを皆に知らせる方法をうまく考えてほしい。

3 事務連絡等

第6回目の会議は6月頃の開催予定とし、日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長の挨拶をもって、午後0時に閉会した。